

D・キンローの説教に学ぶ『キリストのように生きる』より

*デニス・F・キンロー『キリストのように生きる』（葛田緑乃訳）第四説教「神に倣う者となる」

1. 説教の流れ

◇導入) すでに三回の説教がなされた後ということもあり、会衆との信頼関係が整っているところでの語り出しと言える。若干、ぶっきらぼうに「80歳近い私ですが…」と始まる。

しかし、聖書から新しく学んでいるという御言体験の証しが、長老的存在による、御言に学び続けようという招きとして、導入がなされている。

◇御言の語りかけと応答というエコーによって説教が進む。

エペソ5章1節「愛されている子どもらしく、神にならう者となりなさい」

→ 応答：パウロよ、間違っている。どうして神のようになれるか？

なぜなら、神のご性質は、(1) 全能 (2) 全知 (3) 偏在 → 基本教理の紹介

再びパウロに聞く：パウロは「神に倣う」を、特定の定義をしていることに気づく。

- (a) 愛のうちに歩みなさい (101 頁に詳述)
- (b) 基督もあなたを愛したように (102 頁に詳述)
- (c) 神へのささげ物、香り高い犠牲 (103 頁に詳述)

*コメント) 教理を説きつつ、ビブリカルなアプローチを意図的に取ろうとする。

- (a) 愛のうちに歩みなさい (101 頁に詳述)

・創世記の鍵語「歩む」 *前の説教で丁寧に扱った主題

「信仰の模範」…神とともに歩んだ人々、神の友

・「歩む」とは、単一の行為ではなく、継続される信仰生活の神との係りのパターン

「聖書が強調…が、私の行動よりも、生活のパターンであることをありがたく思う」

*コメント) 生活の行動の型と理解されて、律法主義に陥る危うさを避けている。

- (b) 基督もあなたを愛したように (102 頁に詳述)

・アガペーの理解 自己放棄の愛、古代ギリシャにおける異質さ

・「与える」

- (c) 神へのささげ物、香り高い犠牲 (103 頁に詳述)

*注解的アプローチ

・ささげ物①「プロスフォラ(Gk)」→「ミンハー(Hb)」 神に対する贈り物

・ささげ物②「スシアン(Gk)」→「ザバツハ(Hb)」

祭壇を表す「ミズベイアツハー」語源 → ささげ物はしばしば殺され、工程で死を経験する。

→ 人生は犠牲的になる。 +キリストの犠牲が模範

(a)~(c)全体にゴルゴダの十字架におけるキリストの愛の犠牲がかかっている。

◇104 頁 創世記 3 章の罪に陥った人間の描写

- ・ 罪の誘惑は善悪を知る知恵の実により「あなたがたが神のようになり」（創世 3:5）
- ・ 誘惑される人間の思いの推測

「神は…すべてを支配しておられる。蛇は、この実を食べると神のようになる…**支配者**となる」

* 神の像の解釈の一つ

→人間の思考に染み込んだ最初の偽り

*園における堕落の本質「神の支配力」への憧れ、そこに原罪の性質を見ることにより、
エペソ書の「神に倣う者となれ」という招きを、救済史的に位置付けているのではないか。

◇105 頁 キリストの四つの肖像

ヨハネ福音書に見られるキリストの四つの肖像（イメージ）は、支配的概念を追い払う。

*コメント) 突然、4つのキリストのイメージが紹介されるが、エペソ 5:2 の「私を愛し、ささげるキリスト」を福音書から物語っているように感じる。「倣う」イミタティオの黙想の伝統として、心にキリストの肖像を描き出す。

第 1 のキリストの肖像：惨めな姿（受肉者イエス）

世は拒否するが、喜びの応答が期待されている。

第 2 のキリストの肖像：へりくだった姿（僕となった王）

第 3 のキリストの肖像：ひざをつく姿（洗足の主）

礼拝されるべき永遠の神が、礼拝の姿をとられてひざをつく。

第 4 のキリストの肖像：十字架の金曜日

主は、御自身を礼拝する者たちのために犠牲としてご自身を与えて下さった。

→絵全体がひっくり返ったのです。

◇進んで死なれた神に倣う エペソ 5 章と創世記 3 章との対話

「神に倣う者となりなさい」

→最初のわたしたちの応答は、アダムとエバのように神のような支配者への願望。

→しかし、キリストの自己犠牲、進んで死なれる意志、完全な幸福、解放と自由に導かれる。

例) ヘンリー・クレイ・モリソン 109 頁

アブラハムによるイサクの犠牲の場面

◇「神への甘い香り」（エペソ 5:2） *再びテキストに戻るが説明と共に、聴衆を引き込んでいく。

英語訳 *sweet-smelling savour*

オスマーンとユーオデア 旧約の犠牲と関わる語

乳香は樹木に切れ込みを入れて、樹液が染みだして固まった物を粉にして、溶解液で溶かして作る。

Ovate 「卵の形」と「涙の形」の意 犠牲的な甘い香り

◇利己主義の放棄への招き

エペソ 5:2 は故意の意識的な罪を捨てるようにと、悔改めの招きをしているのではない。
むしろ、個人が愛おしく思うものを守ろうと努める利己主義について語っている。

未信者への回心の教えではなく、信仰者へのホーリネスへの招き
利己主義による汚染からの解放を十字架がもたらそうとしている。

*教理的に、義認と聖化を分けて語ることに問いを持つ解釈者もあるだろう。

アダムとエバの罪：外側に向かう代わりに、内側に（利己主義へ）向かった。

教会が福音を説く時に、利己主義に訴えて、利己主義を充足させて招こうとすることがある。

例) 神はあなたの人生に素晴らしい計画をお持ちです。

例) 夫婦間の壊れた関係を、キリストは助ける

例) 死が差し迫った人への地獄行きを回避するための導き

二つの必要なこと：

- (1) キリストの真の姿を見る必要がある。御自身以上に他者を愛して生きたキリストを見る必要
- (2) 私たちのどこがキリストの型と合わないかを見ることのできる誰かが回りにいる必要

◇他人の可能性を見る才能

- ・ブース 『二回生まれた人々』 *OBD の回心
- ・ハロルド・ジョン・オッケンガーの証し
- ・「次のことを申し上げたいと思います。神の御霊は、私が自分の奉仕のために利用できるお方ではありません。この方には私を使う権利があるのです。そして御霊に用いていただきたいとき、私の心は御霊を求めて叫びます」(109 頁)

◇聖亜紀が私たちに求めている必要

- ・利己主義からの解放 ピリピ書 エリセイア「党派心」の課題
- ・P123「私はジョン・ウェスレーのことをふれ回ることに興味がありません。ふれ回りたいのはイエス・キリストのメッセージです。ですから、神にはキリストの流された血汐によって私たちに聖い心を与えることが可能なのだ、と確信をもって世界に伝えることができますと思います。」

◇無私の僕の模範があるか

- ・ピリピ 2:19~21
- ・罪人の頭という告白 (I テモテ 1:15)

3. ディスカッション：聖会説教に生かす学びとして

- ・多様な語り口で語られる、今日の聖会説教のために学び取れる良い点は何か？
- ・聖書との関わり方について
- ・神さまとの親密さについて
- ・「神に倣う」という聖化理解について